

K&Oエナジーグループ株式会社 個人投資家向け説明会

2025年5月31日開催



証券コード 1663

目次

1. グループの概要・・・3
2. 業績の概要等・・・ 18
3. K&Oエナジーグループの取り組み(トピックス)・・・ 24
4. 中期経営計画「中計2027」(抜粋版)・・・ 30

1. グループの概要・・・3
2. 業績の概要等・・・ 18
3. K&Oエナジーグループの取り組み(トピックス)・・・ 24
4. 中期経営計画「中計2027」(抜粋版)・・・ 30

商号	K&Oエナジーグループ株式会社
本店所在地	千葉県茂原市茂原661番地
設立日	2014年1月6日
代表者	代表取締役社長 緑川 昭夫
資本金	80億円
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード1663）
事業目的	ガス事業、ヨウ素事業等を行う子会社等の経営管理及びこれらに附帯又は関連する一切の事業
売上高構成比	【ガス事業】約78% 【ヨウ素事業】約15% 【その他】約7%
決算期	12月31日
発行済株式総数	28,336,061株
従業員数	663名（連結2024年12月末）

【ガス事業】 …天然ガスの採取・販売、都市ガスの供給・販売、LPガスの販売、圧縮天然ガスの製造・販売

【ヨウ素事業】…ヨウ素及びヨウ素化合物の製造・販売、かん水の販売

【その他】 …電気の販売、ガス機器等の販売、建設業、地熱井等の掘削等

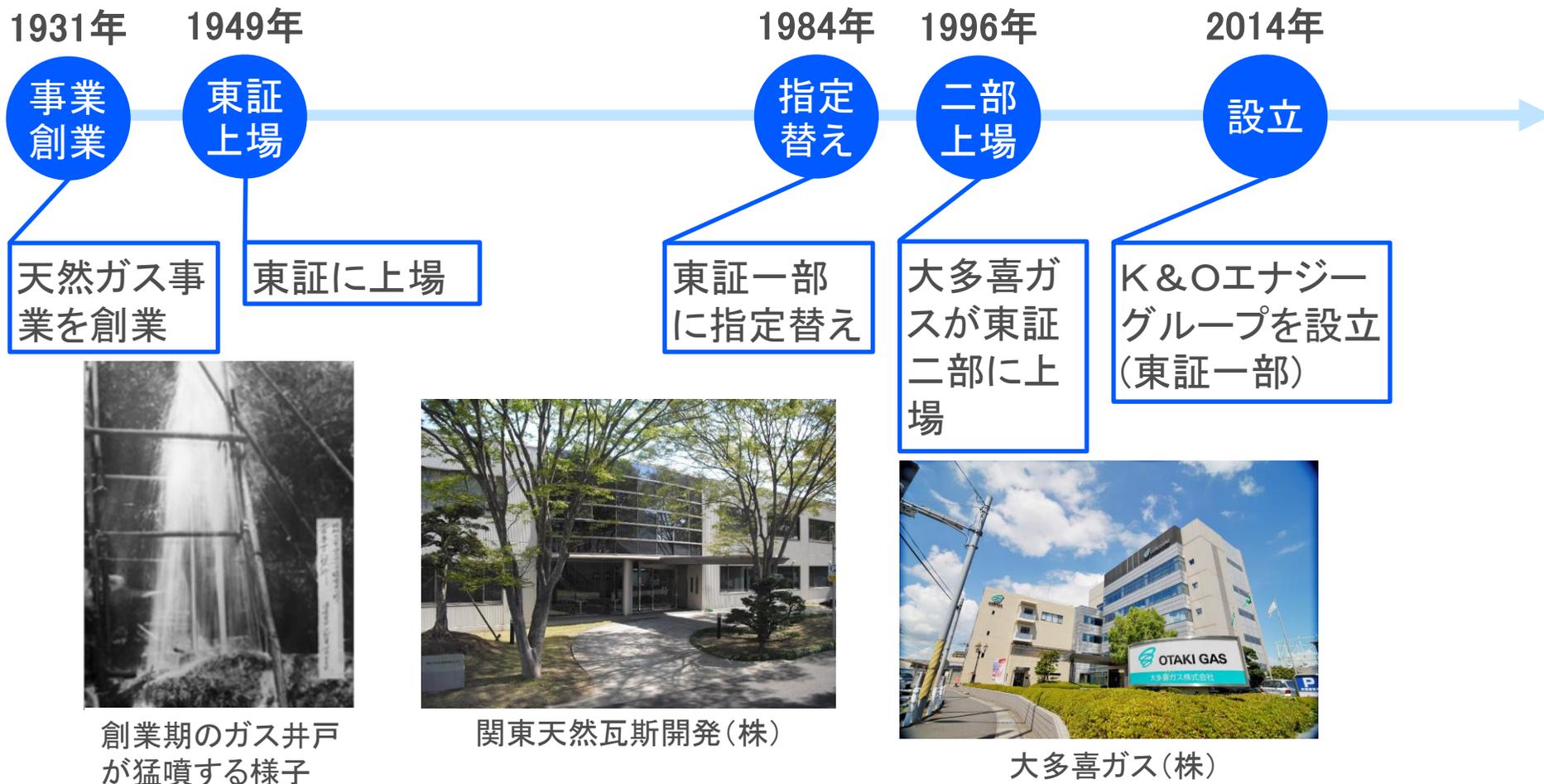
1-2当社グループの構成

「ガス事業」として、天然ガスの生産から都市ガス供給までを一貫して行っています。また「ヨウ素事業」として、ヨウ素の製造・販売等を行っています

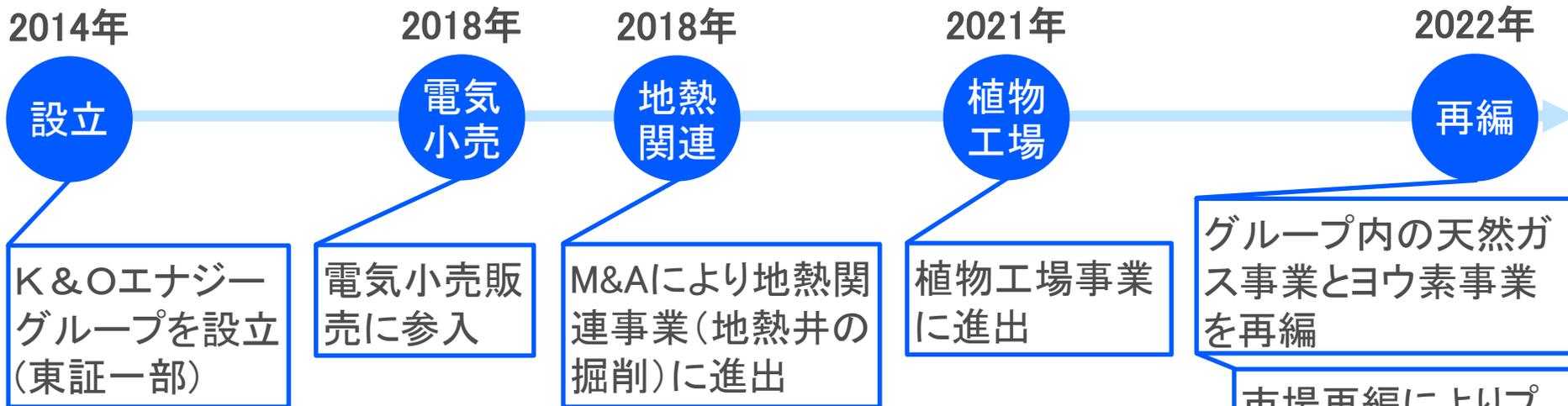
当社の連結子会社

会社名	関東天然瓦斯開発(株)	大多喜ガス(株)	K&Oヨウ素(株)	(株)WELMA
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然ガスの生産・販売 ● かん水の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ガスの供給・販売 ● LPガスの販売 ● 圧縮天然ガスの製造・販売 ● 電気の供給・販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨウ素の製造・販売 ● ヨウ素化合物の製造・販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地熱井等の掘削
イメージ画像	 <p>ガス井</p>	 <p>ガスホルダー</p>	 <p>ヨウ素製造設備</p>	 <p>槽(やぐら)</p>

1-3当社グループのあゆみ①



1-4当社グループのあゆみ②



櫓(やぐら)



完全閉鎖型植物工場におけるレタス類の栽培



ヨウ素製造設備

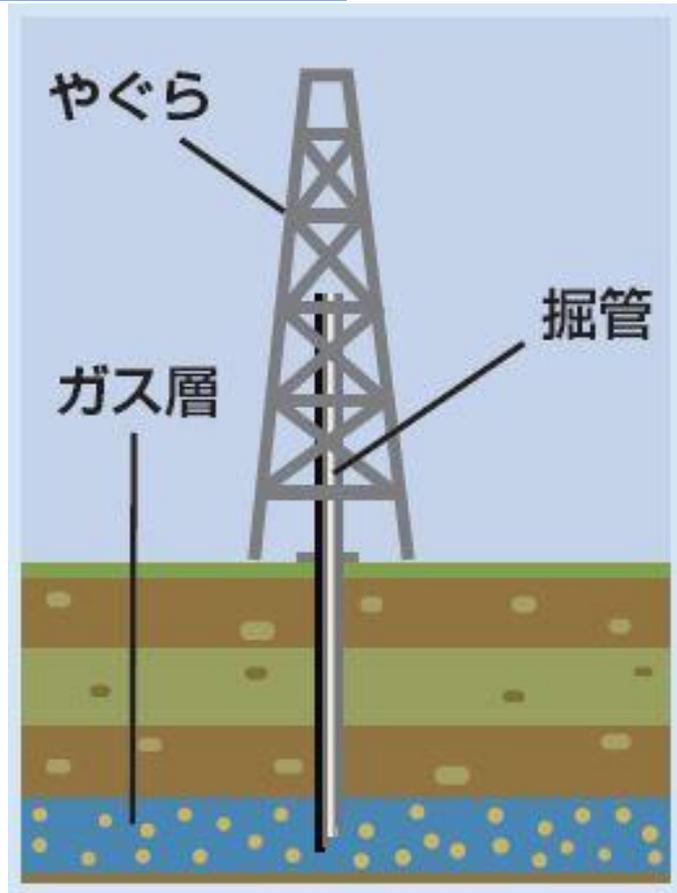
1-5昭和18年当時のフィルム上映(5分弱)

- ・古い記録なので、フィルムが途中で切れたり、音声が聞きづらいところがございます
- ・戦時中のエネルギー事情や当時の生活の様子がご覧いただけます

1-5【参考】ガス井掘さくイメージ図

一般的なガス井では、ロータリー式さく井機を使用し、地中500～2,000メートル位の深さのガス層まで掘さくを行います

ガス井掘さくイメージ図

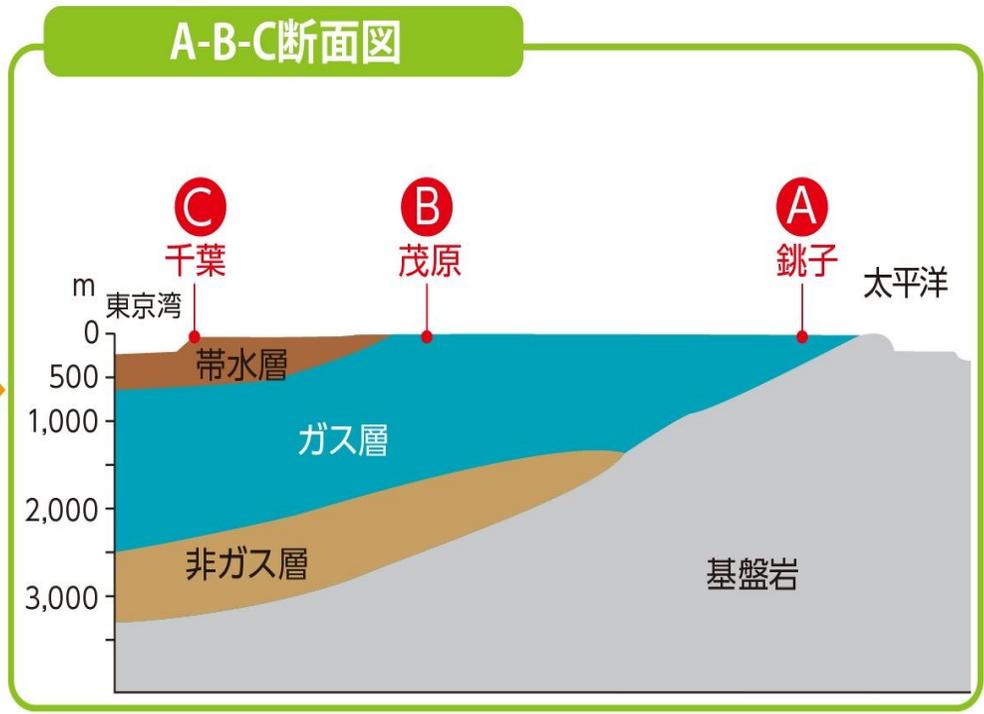


ガス層には、天然ガスが、地下水（「かん水」という塩分を含んだ太古の海水）に溶け込んだ形で存在しています。

1-6南関東ガス田①

「南関東ガス田」は国内最大の水溶性天然ガス田です

当グループの主な採取地域および
県産天然ガス主要ガスパイプライン



1-7南関東ガス田②

「南関東ガス田」のうち、当社グループ鉱区内における可採埋蔵量等

ガス可採埋蔵量

- 約1,100億 m^3
 - 現在の生産量で計算すると約600年分の埋蔵量

ヨウ素可採埋蔵量

- 約64万t
 - 現在の生産量で計算すると約400年分の埋蔵量

参考

国内天然ガス年間生産量 : 19.7億 m^3 (2023年度)
国内ヨウ素年間生産量 : 1.0万t(2023年1月~12月)
世界ヨウ素年間生産量 : 3.3万t(2023年1月~12月/一部推定値)

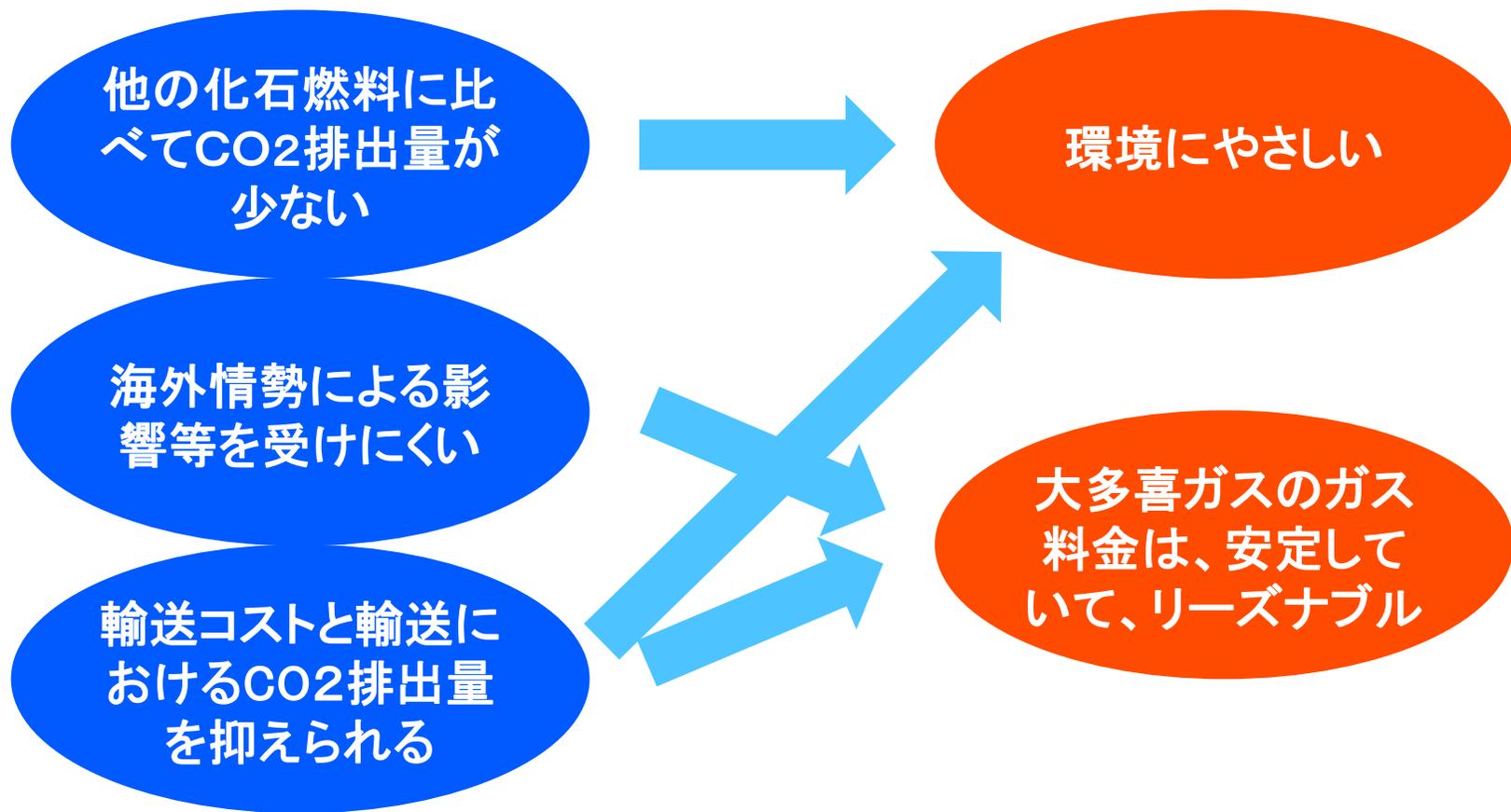
注: 当社グループのガス年間生産量は約1.8億 m^3 (2024年実績)、ヨウ素年間生産量は約1.6千t(2024年実績)。

注: 「参考」は当社調べ

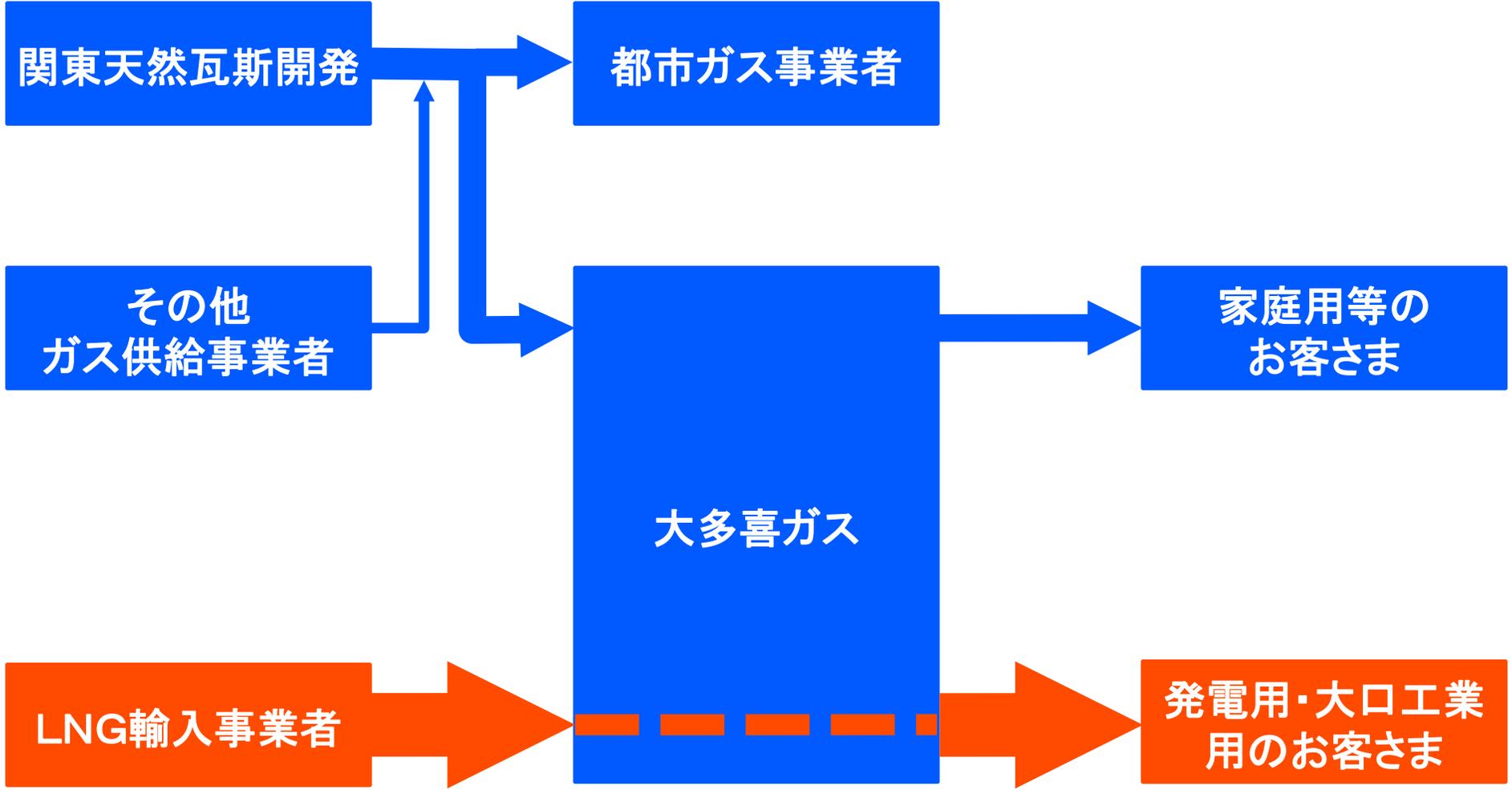
1-8千産千消(地産地消)天然ガス

天然ガスを千葉県で産出して千葉県で消費する、いわゆる千産千消を行っています

千産千消天然ガスのメリット



1-9 当社グループのガスの流れ(簡略図)

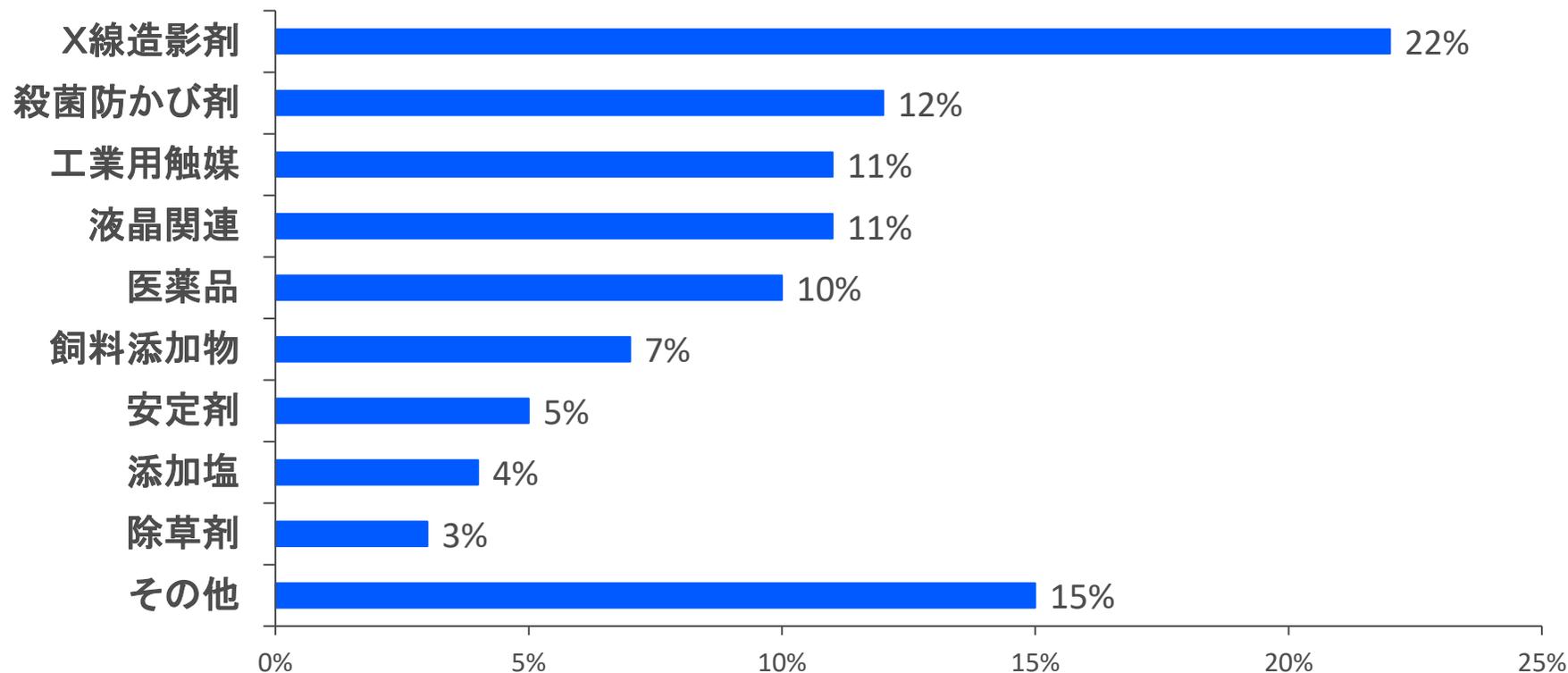


注: 上記の図は、当社グループの都市ガスの流れを簡略化したイメージ図です。

1-10ヨウ素の用途

ヨウ素の用途は多岐にわたっています

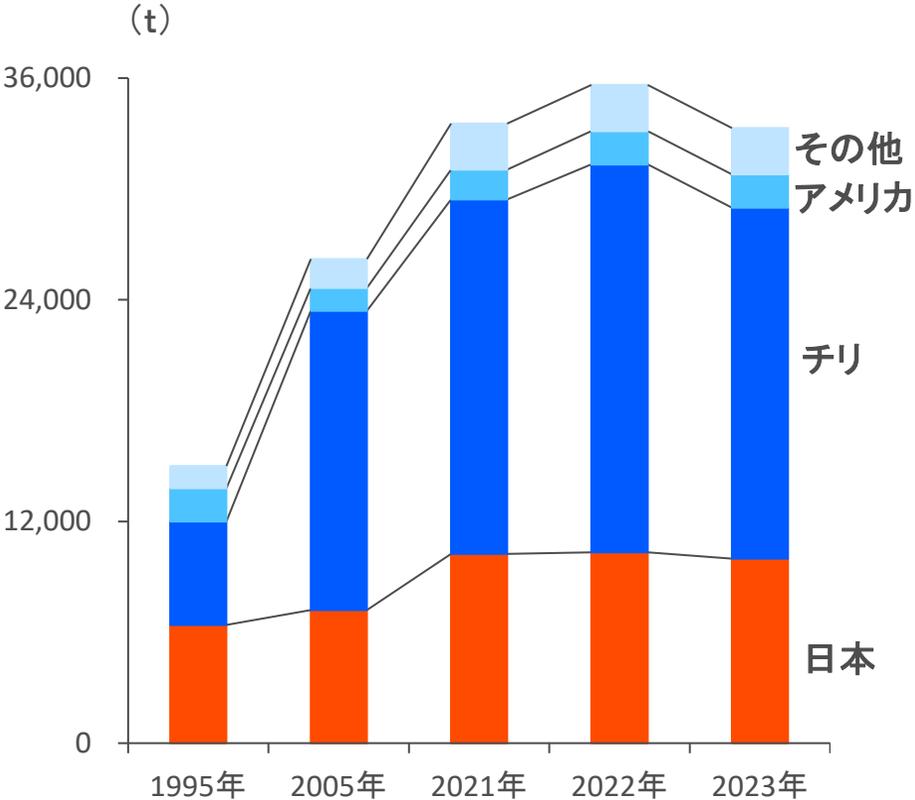
世界におけるヨウ素の用途別需要割合



1-11世界のヨウ素生産量

ヨウ素の需要拡大に伴い、ヨウ素の生産量も増加しています

世界のヨウ素生産量の推移



ヨウ素製品

プリル品



フレーク品

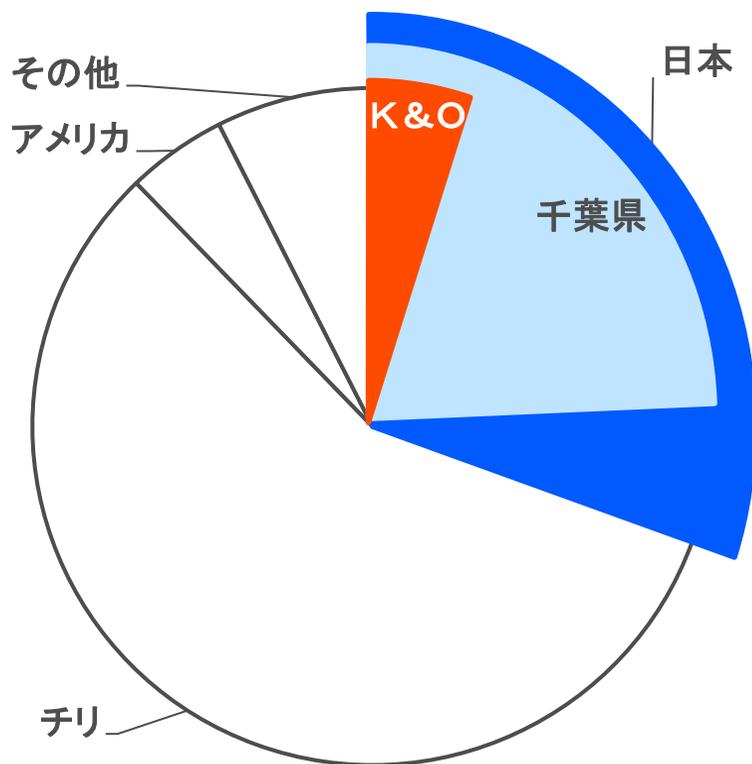


出所: 当社グループ調べ

1-12当社グループのヨウ素生産量

当社グループでは世界のヨウ素生産量の約5%を生産しています

世界のヨウ素生産量



世界における 日本の生産量シェア

- 日本は第2位(約3割)
- 商業レベルでの日本のヨウ素埋蔵量は第1位(約8割)

日本における 千葉県の生産量シェア

- 千葉県は国内の約8割を生産

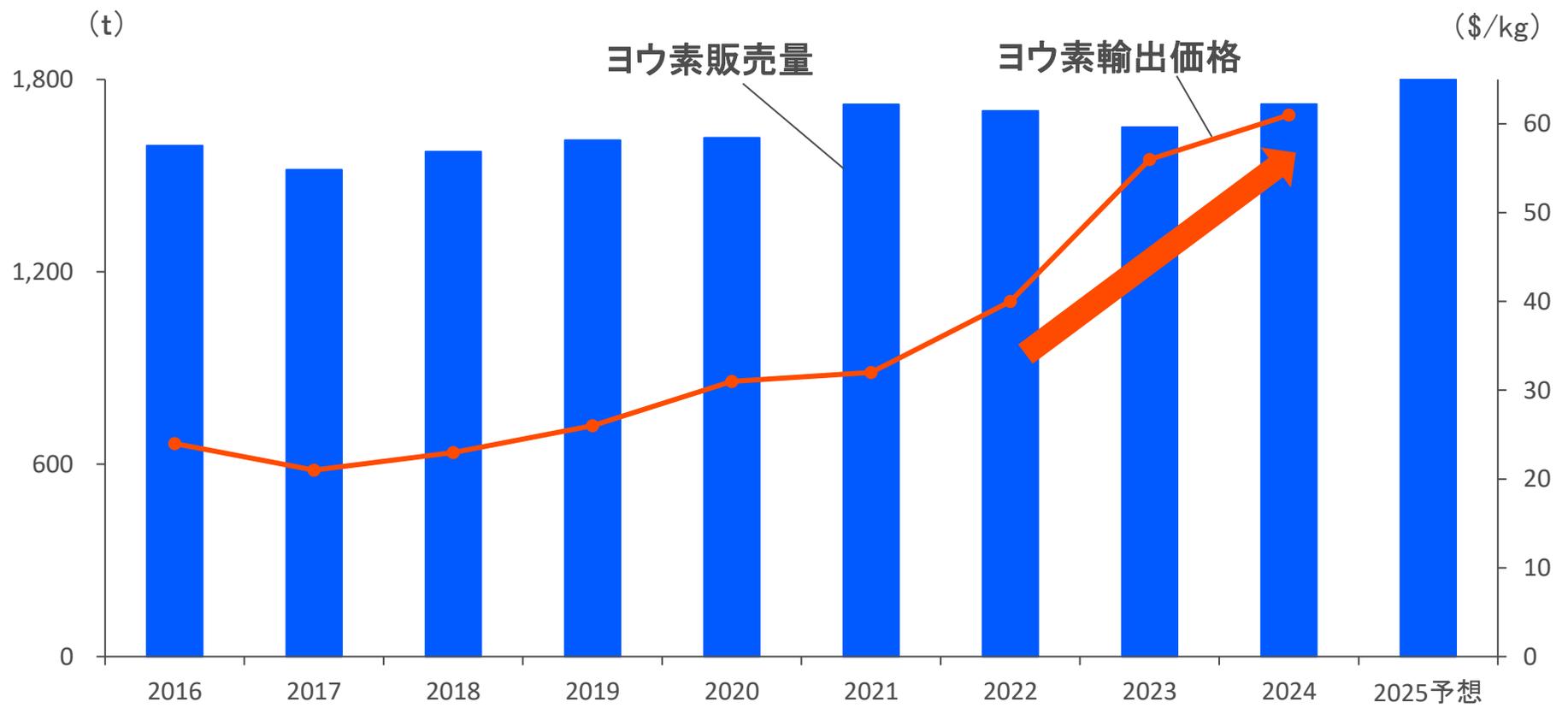
世界・日本における 当社グループの生産量シェア

- 当社グループは世界シェア約5%、国内シェア約15%

1-13ヨウ素販売量とヨウ素輸出価格

ヨウ素販売量(当社グループ)は安定的に推移しており、ヨウ素輸出価格(国内企業の平均)は上昇傾向にあります

ヨウ素販売量とヨウ素輸出価格



注: ヨウ素販売量には、ヨウ素のほか、ヨウ化カリウムも含まれています。ヨウ素輸出価格は輸出通関統計価格をもとに当社で算出。

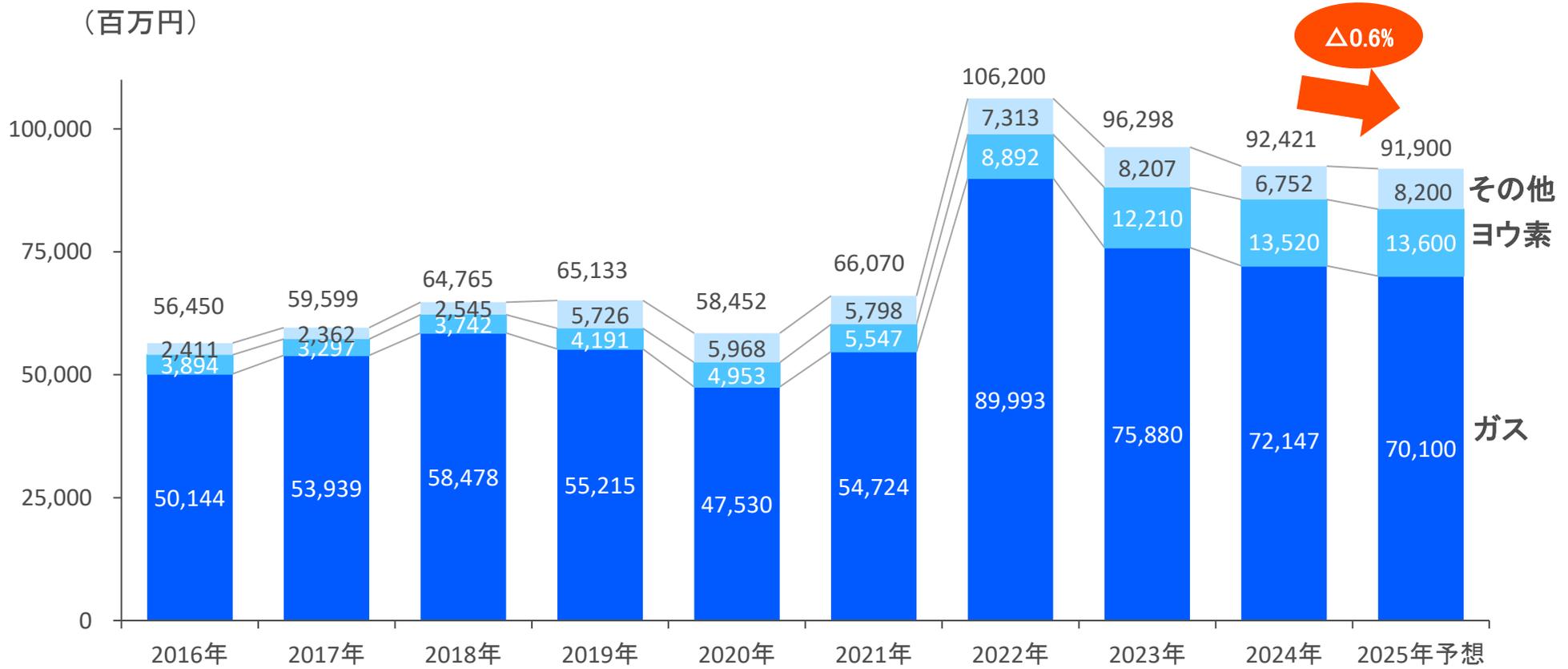
目次

1. グループの概要・・・3
2. 業績の概要等・・・ 18
3. K&Oエナジーグループの取り組み(トピックス)・・・ 24
4. 中期経営計画「中計2027」(抜粋版)・・・ 30

2-1売上高の実績と予想

2025年の売上高は、大口工業用向けのガス販売量が減少するものの、ヨウ素販売量およびその他の工事受注高の増加を見込むことなどにより、2024年実績並みの91,900百万円と予想します

売上高



2-2 2025年業績予想 【ガス事業:売上高】

グループ
概要

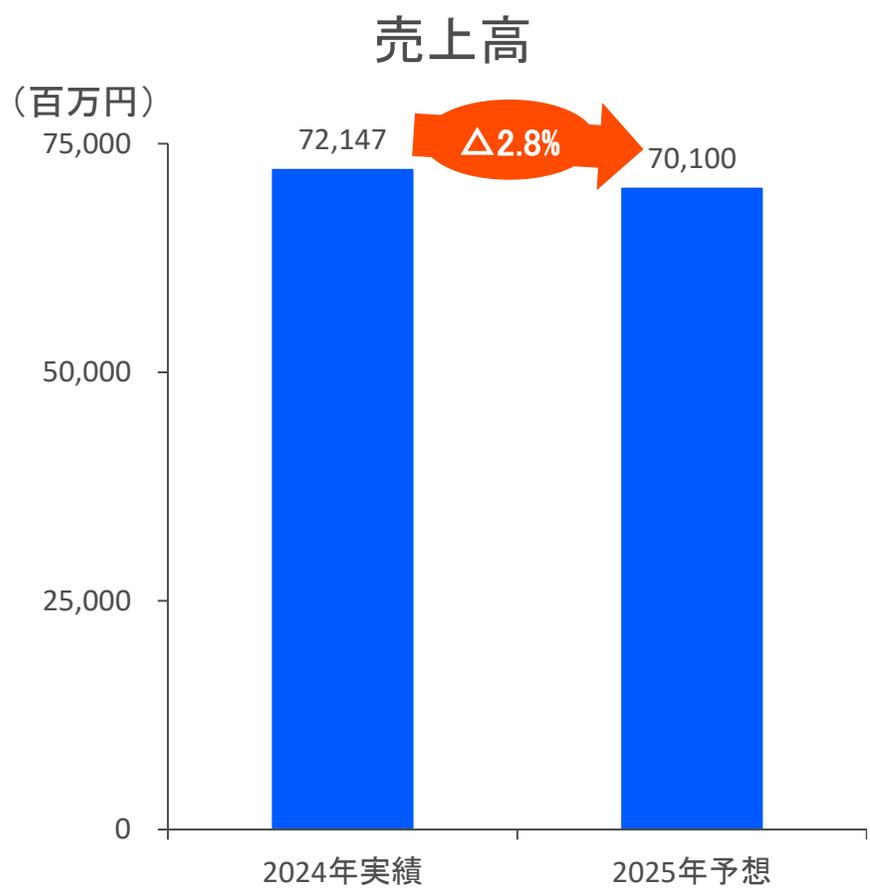
業績
概要

トピッ
クス

中計
2027

K&O エナジーグループ

大口工業用の販売量減少を見込むことなどにより、売上高は2.8%減少の70,100百万円と予想します



売上高の主な増減要因

△ 大口工業用向けのガス販売量が減少

※ LNG-CIF適用価格:
2024年実績 95千円/t
→2025年予想 95千円/t

2-3 2025年業績予想 【ヨウ素事業:売上高】

グループ
概要

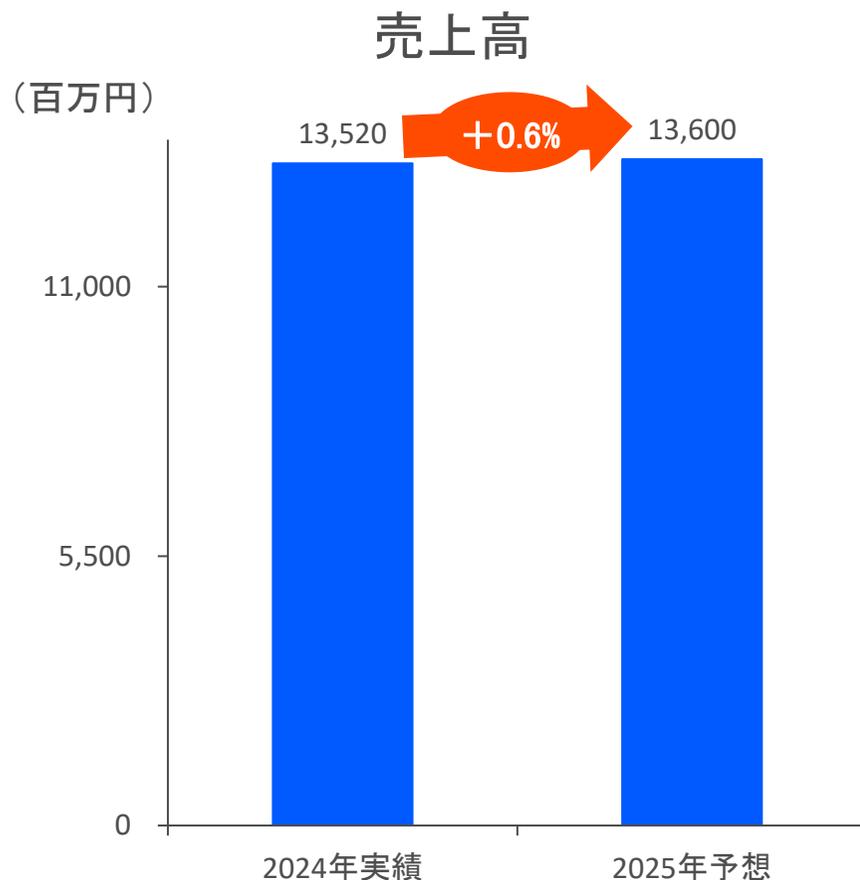
業績
概要

トピッ
クス

中計
2027

K&O エナジーグループ

販売量の増加を見込むものの、為替相場を円高に見込むことなどにより、売上高は2024年実績並みの13,600百万円と予想します



売上高の主な増減要因

◎ 販売量増加

△ 為替相場:円高
2024年実績
151円/\$ (TTB)
→2025年予想
144円/\$ (TTB)

◎ 輸出建値(\$)やや上昇

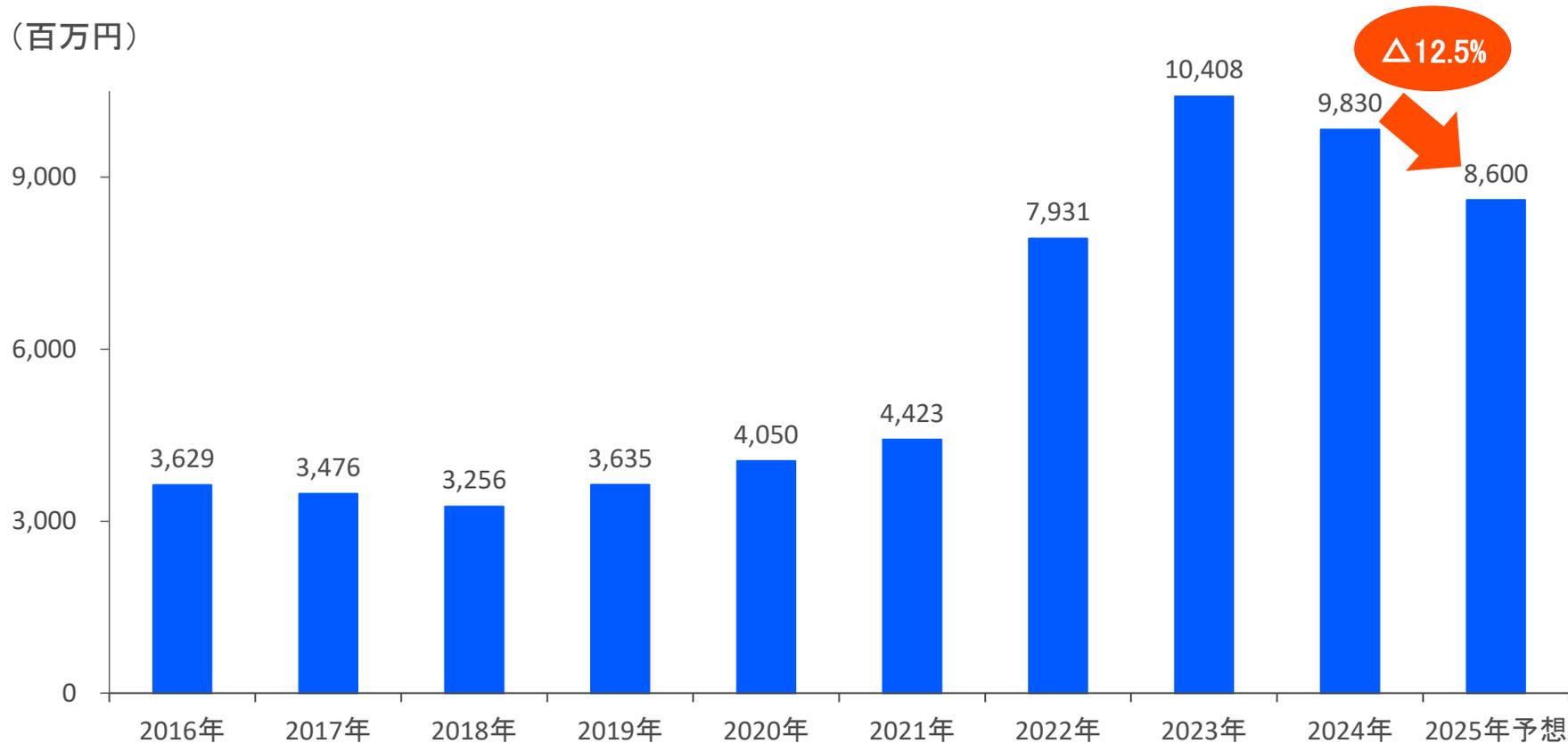
注:売上高には、ヨウ素、ヨウ化カリウムのほか、かん水の売上高も含まれています。

2-4 経常利益の実績と予想

2025年の経常利益は、ヨウ素販売価格の低下や地熱調査費の増加による営業利益の減少を見込むことなどにより、経常利益は12.5%減少の8,600百万円と予想します

経常利益

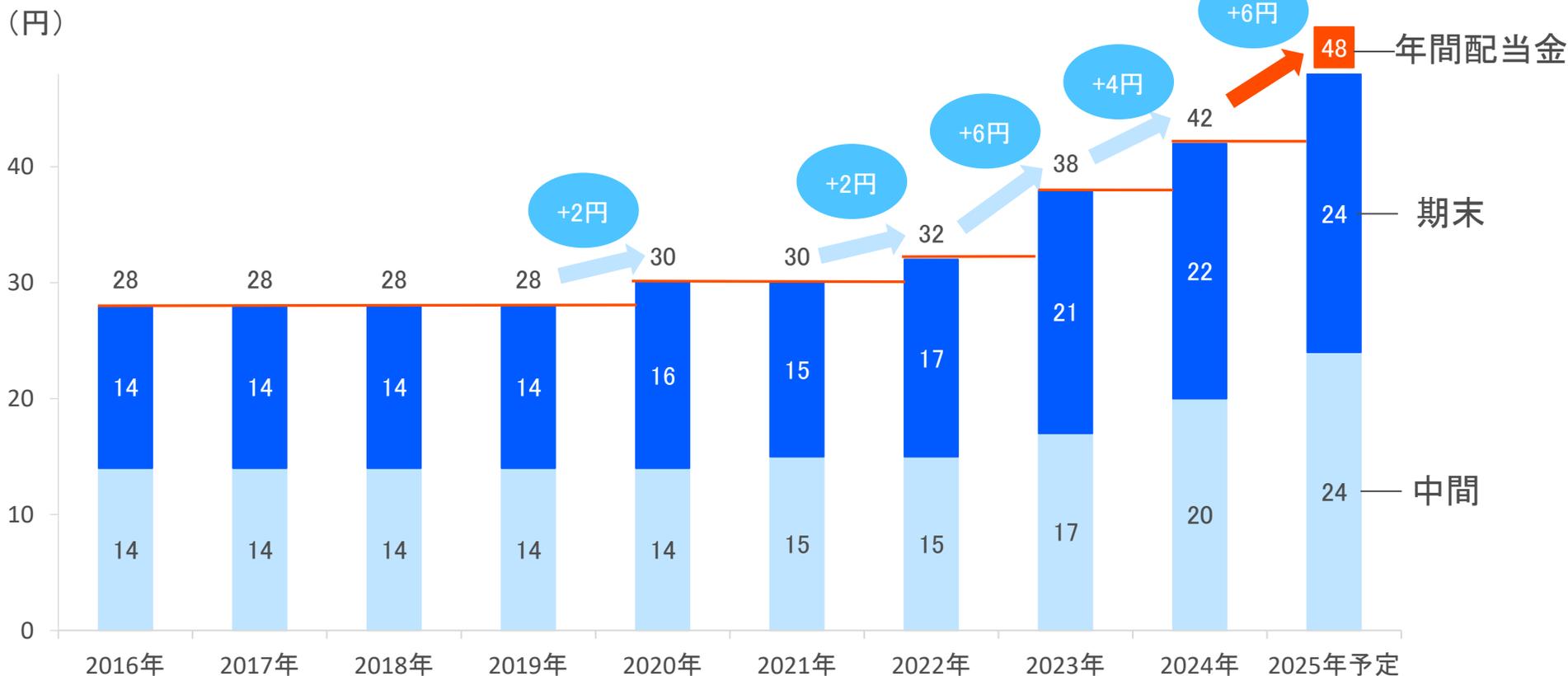
(百万円)



2-5配当金

中長期の連結業績及びフリー・キャッシュフロー等を総合的に勘案し、継続的な安定配当による株主還元の充実を目指します。2025年の配当は、当該方針に基づき、業績予想も勘案の上、昨年から6円増額の年間配当金48円とする予定です

1株当たり配当金



目次

1. グループの概要・・・3
2. 業績の概要等・・・ 18
3. K&Oエナジーグループの取り組み(トピックス)・・・ 24
4. 中期経営計画「中計2027」(抜粋版)・・・ 30

3-1 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

グループ
概要

業績
概要

トピッ
クス

中計
2027

K&O エナジーグループ

現状分析・評価

- 当社の株主資本コストは5%程度と認識
- 天然ガス開発・都市ガス事業の社会インフラ基盤をもつことから総資産が大きく、また社会インフラ企業として財務の健全性を高めたことにより自己資本比率が高く、結果としてROEは低い状態
- 2021年度までROEは3%台が続いていたが、2022年度以降は業績向上によりROEが上昇し、2024年度は6.6%まで水準を上げており株主資本コストを上回っている
- 前述のとおり自己資本比率は高水準にあるが、2024年末に株価が上昇したことから2024年末時点ではPBRは1倍を上回る状況

方針

- 重点分野への積極的投資や継続的な株主還元の充実等により、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現することを基本方針
- 資本コストを上回る資本収益性を維持するために、当該コストを定期的に把握・検証するとともに、財務の健全性を確保しつつ、当社にとって、最適な資本配分を追求

3-1 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

グループ
概要

業績
概要

トピッ
クス

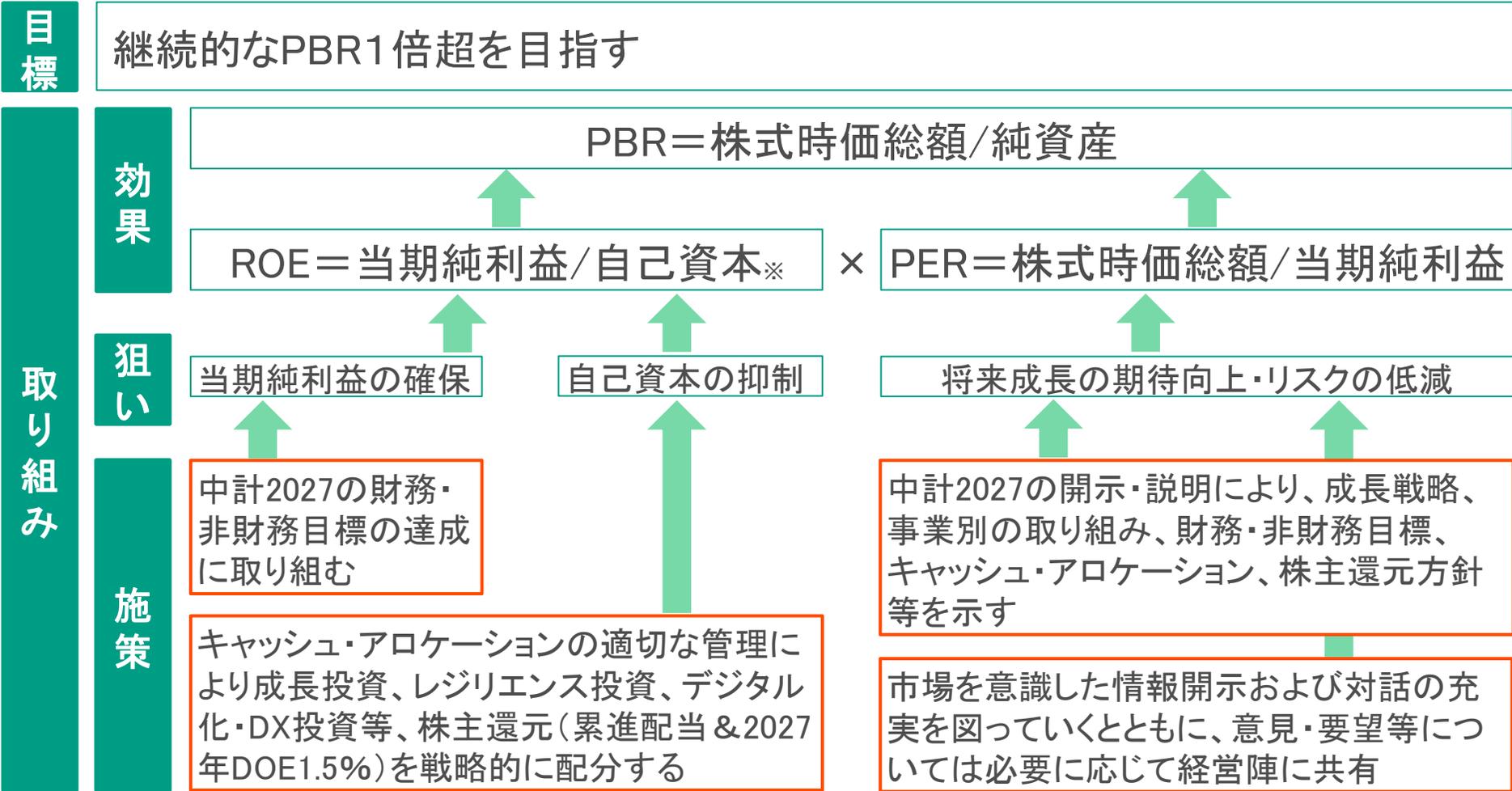
中計
2027

K&O エナジーグループ

現在の取り組み状況

- 2025年から2027年を対象とする「中計2027」を策定した。この計画は、長期経営ビジョン「VISION2030」に基づき、コア事業戦略、未来事業戦略、経営基盤戦略を柱としている。また、キャッシュ・アロケーションに関しては、成長投資と株主還元を通じて企業価値の向上を図る方針を示した。安定的な収益基盤の強化と将来の成長を見据えた投資をバランスよく行うことで、持続可能な企業価値の向上を目指す。
- 株主還元方針として、株主に対する安定的なリターンを提供し、資本コストの低減と安定した株主基盤の構築を図るため、累進配当の導入を決定した。また、2027年の株主資本配当率(DOE)を1.5%とする目標を設定した。
- 適切でタイムリーな情報開示を目指し、経営戦略や投資計画、財務状況に関する情報を適時公開し、透明性の向上に努めた。
- 決算説明会や個人投資家説明会、個別面談を通じて、株主や投資家と積極的に対話を行い、経営方針や事業戦略についての理解を深めた。

3-1 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について



※ROEの分母の自己資本は純資産と同じとして考える

3-2先進的CCS(※)事業「首都圏CCS事業」における合併会社の設立について

グループ
概要

業績
概要

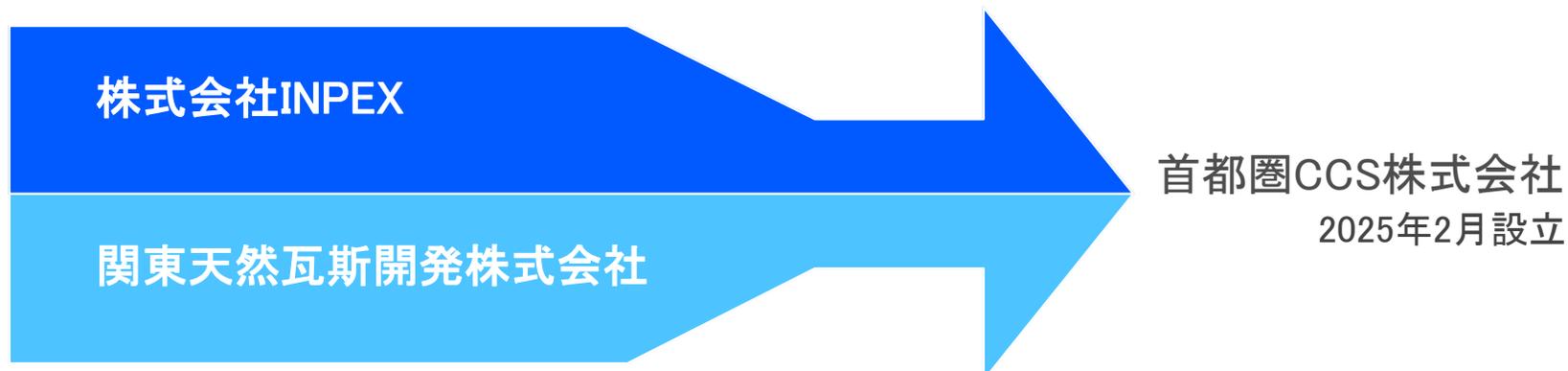
トピッ
クス

中計
2027

K&O エナジーグループ

当社グループの関東天然瓦斯開発(株)は、(株)INPEXとともに、JOGMEC(独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構)の委託事業「首都圏CCS事業」の一環として、合併会社「首都圏CCS株式会社」を2025年2月に設立しました。本合併会社は、CO2貯留評価および輸送導管敷設ルート検討を含む、技術検討・評価並びに事業性評価を担う中核会社となります。

今後は、地域の皆様、自治体および国・関係機関のご理解とご協力をいただきながら、日本製鉄(株)、INPEX(株)、関東天然瓦斯開発(株)および本合併会社「首都圏CCS株式会社」の4社で連携して、カーボンニュートラル社会の実現に貢献できるよう、事業化に向けた調査および設計作業を行ってまいります。



※CCS: Carbon dioxide Capture and Storageの略。日本語では、「二酸化炭素回収貯留」という。

3-3ヨウ素増産計画について

当社のグループ会社であるK&Oヨウ素(株)は、世界シェア約5%を占める世界有数のヨウ素サプライヤーであり、現在の年間生産量1,720t程度を、2030年代には2,000t以上に引き上げるべく、ヨウ素増産計画を積極的に推進しています。千葉工場では、関東天然瓦斯開発(株)における新規ガス開発等の進捗に伴い、将来的にかん水受入量が増加することも見込んで、ヨウ素の精製工程(後半工程)の大規模な設備増強を進めています。さらに、工場まで送水管でかん水を運ぶのが難しい地区では、ガス生産井に併設するヨウ素吸着設備(井戸元吸着設備)の新增設に取り組んでいます。

当社グループは、今後もヨウ素市場の成長が予想されるなか、世界的に希少な資源であるヨウ素の需要拡大に应运てまいります。



ヨウ素精製工程(後半工程)設備



ヨウ素吸着設備(井戸元吸着設備)

目次

1. グループの概要・・・3
2. 業績の概要等・・・ 18
3. K&Oエナジーグループの取り組み(トピックス)・・・ 24
4. 中期経営計画「中計2027」(抜粋版)・・・ 30

長期経営ビジョン

1 中計2024の振り返り

目標達成状況
中計2024総括

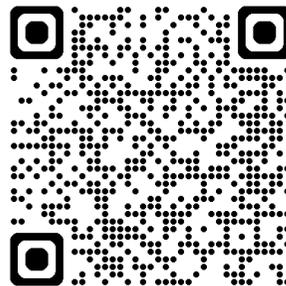
2 中計2027

中計2027の位置づけ
中計2027の重点戦略

3 コア事業戦略

資源開発
エネルギー事業
3要素事業

こちらよりご覧いただけます→



4 未来事業戦略

再エネ事業
CCS事業
森林保全事業

5 経営基盤戦略

人材
DX
ガバナンス

6 主要KPI／株主還元方針

財務・非財務目標
キャッシュ・アロケーション
株主還元方針

TOPICS

地域との共生

マテリアリティの解決に取り組み、サステナブルな社会作りに貢献します

コア事業戦略

資源開発を通じてガス・ヨウ素の増産を目指します
需要家ニーズに応じた総合的なエネルギーサービスを展開します

マテリアリティ 1 2 3 4 5

1 資源開発

2 エネルギー事業

3 ヨウ素事業

未来事業戦略

再生可能エネルギーやCCSなどカーボンニュートラルに貢献する関連事業へ挑戦することで、企業価値向上を目指します

マテリアリティ 1 2 3

1 再エネ事業

2 CCS事業

3 森林保全事業

経営基盤戦略

持続可能な経営を実現するため、ダイバーシティの推進やDX戦略・人材戦略、コーポレートガバナンスの向上を目指します

マテリアリティ 6 7 8

1 人材

2 DX

3 ガバナンス



重要な社会課題（マテリアリティ）の解決

K&Oエナジーグループ
マテリアリティ

- 1 気候変動対策への貢献
- 2 自然環境の保全
- 3 事業の成長拡大・次世代事業創出
- 4 エネルギーとヨウ素の安定供給と安全・安心の確保
- 5 地域社会との共生
- 6 ダイバーシティの推進と人材力強化
- 7 デジタル変革の推進
- 8 コーポレートガバナンスの向上

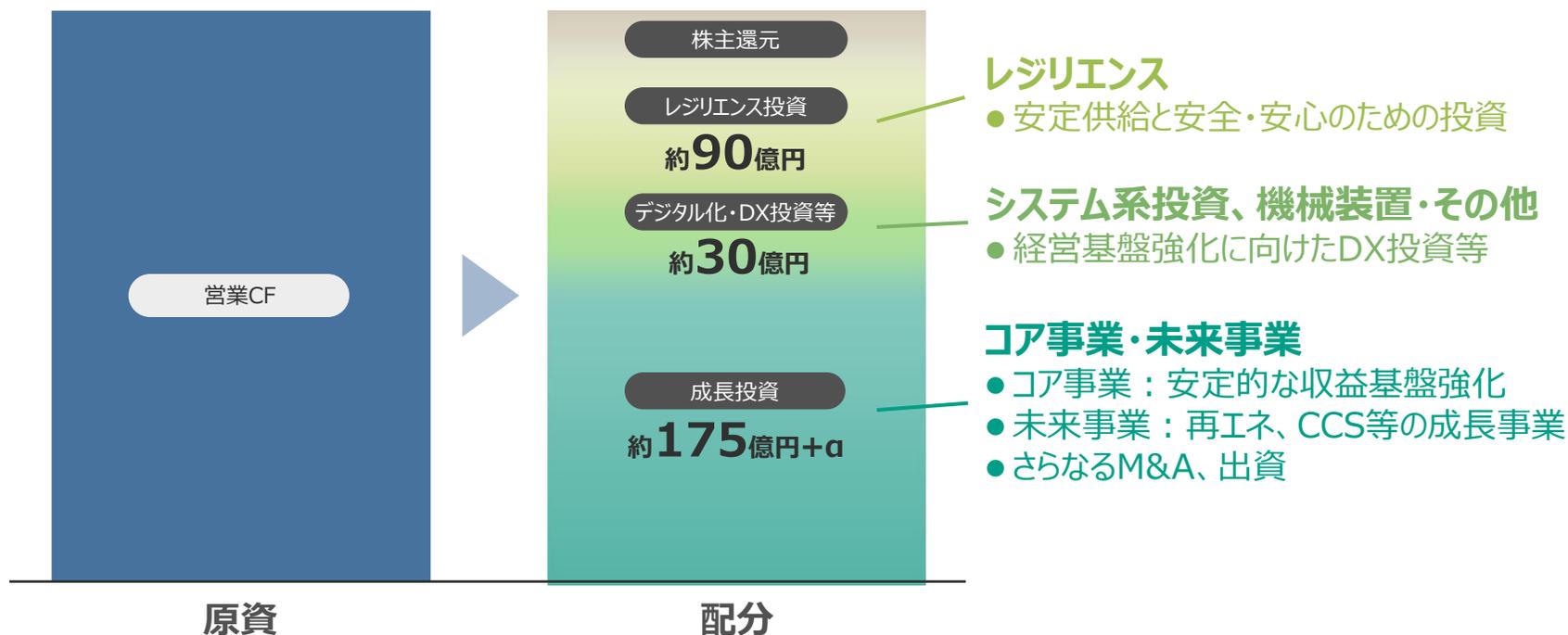
財務目標	2027年目標
経常利益*	75億円

非財務目標	2027年目標	K&Oエナジーグループの「マテリアリティ」					
		① 気候変動 対策への 貢献	② 自然環境 の保全	③ 事業の成長 拡大・次世代 事業創出	④ エネルギーとヨウ素 の安定供給と 安全・安心の確保	⑤ 地域社会 との共生	
E： 低炭素社会の 実現に向けて	国産天然ガス生産量	1.8億m ³ /年	○		○	○	
	脱炭素関連開発件数	12件	○	○	○		
S： 暮らしと社会の 発展に向けて	ガス販売獲得量	累計540万m ³	○				
	ヨウ素販売量(ヨウ化カリウムを含む)	1,900 t /年				○	
	お客さまアカウント数	21万件			○		
	重大事故件数	0件				○	○
	継続的な災害対策の向上、地域社会への防災貢献					○	○
G： 持続可能な 企業グループに 向けて	多様な人材の確保と活躍推進、社員教育への投資拡大、能力開発/発揮・活躍領域拡大の推進		⑥ダイバーシティの推進と人材力強化				
	業務効率化を伴う生産性向上やレジリエンス強化、AI導入などに向けた7件の取り組み		⑦デジタル変革の推進				
	コーポレートガバナンスの強化、ステークホルダーとの対話の充実		⑧コーポレートガバナンスの向上				

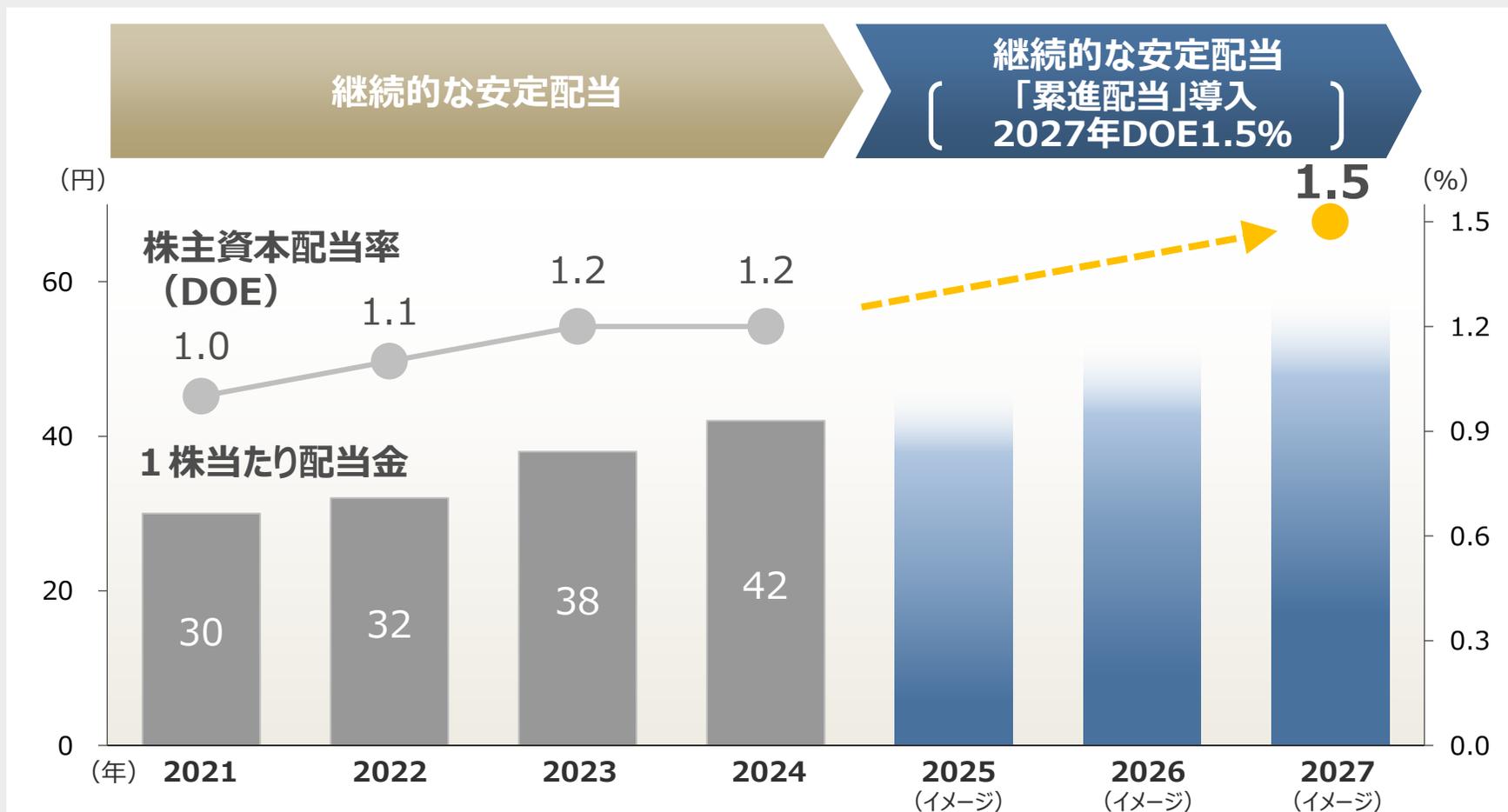
* 為替145円/\$を想定

成長投資と株主還元により企業価値の向上を図ります

キャッシュ・アロケーション（2025～2027年の3ヶ年累計）



「累進配当*」を導入するとともに、中計2027の最終年度の株主還元指標を「株主資本配当率 (DOE) 1.5%」とします



* 企業が一定期間、減配せず、増配か配当維持を続ける配当手法

最後に: 本日のお土産について

植物の生長を助ける「かん水フルボ酸」が配合されている植物用活力液「リキダス」をお持ち帰りいただけるようにご用意しましたので、ぜひご利用ください。

植物の生長を助ける「かん水フルボ酸」

概要

- かん水はヨウ素成分以外にもいくつかの有用な成分を含有しており、その一つが「かん水フルボ酸」です。

特長・用途

- 「かん水フルボ酸」は、植物の生長促進作用を持ち、現在、家庭用園芸肥料への添加物として採用されています。

詳細

- フルボ酸は、動植物の遺骸が長い年月をかけて自然界で分解や重合を繰り返して出来る茶褐色の有機物で、腐植物質の一種です。土の中の各種ミネラルと結合し植物への吸収を促進することにより、植物の生育を高めめます。



本資料のお取り扱い上のご注意

- 本資料は当社をご理解いただくために作成したもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料の一切の権利は当社に属しており、方法・目的を問わず、無断で複製・転載を行わないようお願い申し上げます。

お問い合わせ先： K&Oエナジーグループ株式会社 総務部 0475-27-1011